

## 博物館図書室の現状と課題

久保 恵

博物館とは、資料収集・整理保管・調査研究・教育普及を行う非営利かつ常設の社会教育施設のひとつである。本研究が取り上げる博物館図書室とは博物館施設の中での一つで、博物館内にある図書室のことを指す。

博物館図書室は図書館側からは専門図書館に分類される。しかし、博物館図書室について論じているものは博物館と図書館のどちらの分野においても非常に少ない。また博物館図書室を扱っているものでも、そのほとんどが各博物館における図書室の活動報告にとどまっている。以上のことから、博物館図書室の実態や考察は従来不十分であったと言える。

そこで本研究ではまず、多様な博物館図書室の現状、博物館が持つ図書室に対する考え方を明らかにすることを目的とする。そして、それらを基に博物館内における図書室の在り方について考察・検討・理解に資することを目的とする。

調査方法として、文献調査と訪問調査を行う。文献調査では、今回調査対象とする関東地区 1 都 6 県にある公立博物館、博物館図書室を調査した。訪問調査では、対象となった図書室を有する博物館に訪問し、職員・利用可能なサービス・担当職員の博物館図書室に対する考え等について質問項目を作成し、調査を行った。訪問調査対象館は、入間市博物館 ALIT、神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぷらざ)、東京都江戸東京博物館、東京都写真美術館の計 4 館である。

文献調査の結果、博物館図書室の定義は特に定められていない。しかし、博物館図書室の設置目的・博物館の理念や機能をより効果的に発揮することであるという点は共通している。また、一般の専門図書館との相違点として、博物館図書室には一般利用者と博物館の内部利用者の 2 種類の利用者がいるという点が共通していた。そして量的な調査の結果、関東地区に対象博物館が 390 館あり、その内、図書室を持つ博物館は 104 館存在していることが明らかになった。さらに、その内、約 80% は一般の利用が可能であった。

訪問調査の結果、文献調査においてまとめられていた博物館図書室に関する考察と実際の博物館図書室の現状にずれが生じていることがわかった。また、訪問調査を行った博物館では、主に一般利用者の利用を踏まえた図書室の役割を考えていた。これより博物館図書室は博物館の教育普及機能を有すると位置づけることができるが、全ての博物館図書室がこれを満たしているとは限らない。

現在の博物館図書室は、博物館の博物館図書室の認識が低く、各博物館図書室が各々手探りで活動を行っている状態である。そこで今後は博物館図書室の位置づけを確立していくことが課題として挙げられる。博物館図書室の位置づけを確立することで、それが具体的な指標・目標となり、博物館図書室の発展・活動向上につながると考えられる。

(指導教員 白井哲哉)